

日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2000年 3月31日

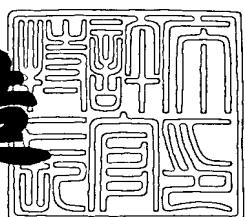
出願番号
Application Number: 特願2000-098108

出願人
Applicant(s): シャープ株式会社

2001年 1月12日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3111584

【書類名】 特許願
【整理番号】 00J00513
【提出日】 平成12年 3月31日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G02F 1/136
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内
【氏名】 久保 真澄
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シャープ株式会社内
【氏名】 明比 康直
【特許出願人】
【識別番号】 000005049
【氏名又は名称】 シャープ株式会社
【代理人】
【識別番号】 100077931
【弁理士】
【氏名又は名称】 前田 弘
【選任した代理人】
【識別番号】 100094134
【弁理士】
【氏名又は名称】 小山 廣毅
【選任した代理人】
【識別番号】 100110939
【弁理士】
【氏名又は名称】 竹内 宏

【選任した代理人】

【識別番号】 100110940

【弁理士】

【氏名又は名称】 嶋田 高久

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014409

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示装置およびその欠陥修正方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1基板と、第2基板と、前記第1基板と第2基板との間に設けられた液晶層とを有し、前記第1基板は、複数のスイッチング素子と、前記複数のスイッチング素子上に形成された層間絶縁膜と、前記複数のスイッチング素子のそれぞれのドレイン電極とそれが電気的に接続された複数の画素電極とを有し、前記第2基板は、前記液晶層を介して前記複数の画素電極に対向する対向電極とを有する、液晶表示装置であって、

前記複数の画素電極のそれぞれは、前記層間絶縁膜の下に形成された透明電極と、前記層間絶縁膜の上に形成された反射電極とを有し、

前記反射電極は、前記透明電極と前記ドレイン電極との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線を介して前記ドレイン電極に接続されている、液晶表示装置。

【請求項2】 前記接続配線は、前記透明電極と同一の導電層から形成されており、前記反射電極は、前記層間絶縁膜に設けられたコンタクトホールにおいて、前記接続配線と接続されている、請求項1に記載の液晶表示装置。

【請求項3】 前記コンタクトホールは、前記第1基板側からの光が透過しない領域に設けられている、請求項2に記載の液晶表示装置。

【請求項4】 前記接続配線は、前記コンタクトホールに対応する第1領域よりも、配線の幅が狭い第2領域を有する、請求項2または3に記載の液晶表示装置。

【請求項5】 前記接続配線の前記第2領域は、前記第1基板側からの光が透過する領域に設けられている、請求項4に記載の液晶表示装置。

【請求項6】 前記接続配線の前記第2領域上には、前記反射電極が形成されていない、請求項4または5に記載の液晶表示装置。

【請求項7】 前記第2基板は、前記接続配線の前記第2領域に対向する領域に遮光層を有する、請求項6に記載の液晶表示装置。

【請求項8】 請求項1から7のいずれかに記載の液晶表示装置の欠陥修正

方法であって、

複数の画素電極のなかか、反射電極を介した短絡不良が発生している画素電極を特定する工程と、

前記特定された画素電極の前記反射電極を、接続配線を切断することによって、前記特定された画素電極の透明電極とドレイン電極との電気的な接続を維持したまま、ドレイン電極から電気的に切断する工程と、

を包含する、液晶表示装置の欠陥修正方法。

【請求項9】 前記複数の画素電極のうち、互いに隣接した2つの画素電極がいずれかの反射電極を介して短絡しているとき、同一フレーム内で先に書き込みが行われる画素電極の反射電極をドレインから電気的に切断する、請求項8に記載の液晶表示装置の欠陥修正方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、液晶表示装置およびその欠陥修正方法に関し、特に、反射電極と透明電極とを備えた液晶表示装置およびその欠陥修正方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

液晶表示装置は、薄型で低消費電力であるという特徴を生かして、ワードプロセッサやパーソナルコンピューターなどのOA機器や、電子手帳等の携帯情報機器、あるいは、カメラ一体型VTRのモニタ等に広く用いられている。

【0003】

液晶表示装置は、CRT（ブラウン管）やEL（エレクトロルミネッセンス）などの表示装置とは異なり、自らは発光しないため、背後に配置された蛍光管を備えた照明装置（「バックライト」と呼ばれる）からの光を用いて表示する方法（「透過型」と呼ばれる。）が、一般的である。バックライトは、通常、液晶表示装置の全消費電力のうちの50%以上を消費するため、戸外や常時携帯して使用することが多い機器には、バックライトの代わりに反射板を設置し、周囲光を利用して表示する方法（「反射型」と呼ばれる。）も用いられている。

【0004】

しかしながら、反射型液晶表示装置は周囲の光が暗い場合には視認性が極端に低下するという欠点を有し、一方の透過型液晶表示装置は、逆に、周囲光が非常に明るい場合、例えば晴天下等で、視認性が低下するという欠点を有する。そこで、光反射機能を有する材料からなる反射電極と、光透過機能を有する材料からなる透明電極と一枚のパネルに設けることによって、周囲の光が暗い場合には、バックライトを用いて透明電極を透過する光を利用して表示する透過型液晶表示装置として、周囲光が明るい場合には、反射電極による反射光を利用して表示する反射型液晶表示装置として、表示が可能な表示装置、透過反射両用型液晶表示装置（以下、「両用型」と称する。）が得られる。

【0005】

両用型の液晶表示装置は、周囲光が明るい場合にはバックライトを使わないのと、従来の透過型液晶表示よりも低消費電力であり、周囲光が暗い場合にはバックライトを使って表示を行うことができるの、従来の反射型液晶表示装置のように周囲の光が暗い場合に十分な表示が得られないという欠点がない。さらに、透過型表示装置として利用しているときに、周囲光が表示面で反射する（例えば、蛍光灯の光）ことが抑制される（反射モードの表示に利用されることもある）ので、透過型液晶表示装置の表示品を向上する利点もある。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、両用型液晶表示装置において、画素電極と対向電極との間、または、隣接する画素電極間が短絡し、表示欠陥が発生した場合に、従来の構造や従来の修正方法では、表示欠陥を効果的に修正できないという問題があることを本願発明者は見出した。

【0007】

まず、層間絶縁膜の下に形成された透明電極と、層間絶縁膜の上に形成された反射電極とを有する画素電極を備えた両用型液晶表示装置においては、導電性異物などによる短絡は、反射電極と対向電極との間、あるいは、隣接する反射電極間で発生することが多い。次に、このような短絡による表示欠陥が発生した場合

、反射電極だけを電気的に切断すれば、透過電極に所定の電圧を印加することができる、表示欠陥が生じた画素の透過領域は正常な表示を行うことができる。すなわち、表示欠陥の生じた画素全体を犠牲にすることなく、表示欠陥を修正することができる。

【0008】

しかしながら、従来の両用型液晶表示装置の構造や従来の欠陥修正方法では、透過電極の電気的な接続を正常に維持したまま、反射電極だけを電気的に切断することが困難であった。

【0009】

本発明は、上述の問題に鑑みてなされたものであり、その目的は、反射電極と透明電極とを有する液晶表示装置において、反射電極を介した短絡不良が発生した場合に、短絡不良が発生した画素の透明電極を正常に動作させるための修正が容易な液晶表示装置を提供することおよびそのような欠陥の修正方法を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】

本発明の液晶表示装置は、第1基板と、第2基板と、前記第1基板と第2基板との間に設けられた液晶層とを有し、前記第1基板は、複数のスイッチング素子と、前記複数のスイッチング素子上に形成された層間絶縁膜と、前記複数のスイッチング素子のそれぞれのドレン電極とそれが電気的に接続された複数の画素電極とを有し、前記第2基板は、前記液晶層を介して前記複数の画素電極に対向する対向電極とを有する液晶表示装置であって、前記複数の画素電極のそれぞれは、前記層間絶縁膜の下に形成された透明電極と、前記層間絶縁膜の上に形成された反射電極とを有し、前記反射電極は、前記透明電極と前記ドレン電極との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線を介して前記ドレン電極に接続されている構成を有し、そのことによって上記目的が達成される。

【0011】

前記接続配線は、前記透明電極と同一の導電層から形成されており、前記反射電極は、前記層間絶縁膜に設けられたコンタクトホールにおいて、前記接続配線

と接続されている構成としてもよい。

【0012】

前記コンタクトホールは、前記第1基板側からの光が透過しない領域に設けられていることが好ましい。

【0013】

前記接続配線は、前記コンタクトホールに対応する第1領域よりも、配線の幅が狭い第2領域を有することが好ましい。

【0014】

前記接続配線の前記第2領域は、前記第1基板側からの光が透過する領域に設けられてもよい。

【0015】

前記接続配線の前記第2領域上には、前記反射電極が形成されていないことが好ましい。

【0016】

前記第2基板は、前記接続配線の前記第2領域に対向する領域に遮光層を有することが好ましい。

【0017】

本発明による液晶表示装置は、上述した液晶表示装置の欠陥修正方法であって、複数の画素電極のなからか、反射電極を介した短絡不良が発生している画素電極を特定する工程と、前記特定された画素電極の前記反射電極を、接続配線を切断することによって、前記特定された画素電極の透明電極とドレイン電極との電気的な接続を維持したまま、ドレイン電極から電気的に切断する工程とを包含し、そのことによって、上記目的が達成される。

【0018】

前記複数の画素電極のうち、互いに隣接した2つの画素電極がいずれかの反射電極を介して短絡しているとき、同一フレーム内で先に書き込みが行われる画素電極の反射電極をドレインから電気的に切断することが好ましい。

【0019】

以下、本発明の作用を説明する。

【0020】

本発明の液晶表示装置が有する反射電極は、透明電極とドレイン電極との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線を介してドレイン電極に接続されているので、例えば、導電性異物などによって反射電極が対向電極と短絡した場合、接続配線を切断すれば、透明電極とドレイン電極との電気的な接続を維持したまま、反射電極がドレイン電極から電気的に切断することができる。

【0021】

従って、透明電極には、ドレイン電極を介して正常に電圧が印加される。反射電極と対向電極は短絡したままなので、反射領域は点欠陥となるが、透過領域の点欠陥よりも視認され難いので、透明電極を正常に動作させることによって、充分な表示品位が得られる。

【0022】

上述の構造および欠陥修正法は、画素電極と対向電極とが一時的に短絡したりオープンになったりするような、点滅点欠陥の修正にも有効である。さらに、ノーマリブラックモードで表示を行う液晶表示装置に適用すると、修正後の反射領域は黒点となり、さらに視認され難くなるので、欠陥修正の効果がさらに高い。

【0023】

接続配線を透明電極と同一の導電層から形成することによって、液晶表示装置の構造が単純になり、製造プロセスが複雑になることを防止できる。

【0024】

接続配線と反射電極とを電気的に接続するために層間絶縁膜に設けられるコンタクトホールを、例えば、補助容量配線、走査配線または信号配線など、バックライトからの光が透過しない領域に形成すると、透過領域として表示に利用できる面積が増えるので、透過領域の実効開口率が向上する。

【0025】

接続配線が、コンタクトホールに対応する第1領域よりも、配線の幅が狭い第2領域を有する構成を採用すると、接続配線の第2領域を容易に切断することができる。また、接続配線の第2領域を、バックライトからの光が透過する領域に形成すると、第1基板側から、第2領域を容易に確認でき、且つ、レーザ光を確

実際に照射することができる。さらに、接続配線の第2領域上に反射電極が形成されていない構成を採用すると、例えば、レーザ光を用いる切断工程において、反射電極を構成する金属層（例えばA1層）がレーザ光照射によって部分的に欠落する等の問題が生じない。欠落した金属層の破片は、短絡の原因になることがある。

【0026】

また、欠陥修正のためにレーザ光等が照射された領域は、液晶分子の配向不良などが発生し正常な表示ができないことが多いため、接続配線の切断予定部位（上記の第2領域など）に対応する対向基板に遮光層を設けた構成を採用すると、上記の不良を視認され難くできる。

【0027】

隣接する反射電極間が短絡している場合、上記接続配線を切断することによって、いずれか一方の反射電極をドレイン電極から電気的に切断すれば、切断されなかった方の反射電極には正常な電圧が印加され、且つ、電気的に切断された反射電極には、他方の反射電極と同じ電圧が印加されるので、表示欠陥は視認され難くなる。さらに、電気的に短絡している、同一の信号線に沿って互いに隣接する反射電極の内、同一フレーム内で先に書き込みが行われる反射電極をドレイン電極から電気的に切断すると、切り離された反射電極は、同一フレーム内で後で書き込みが行われる画素に対する信号で駆動されることになるので、電気的に切断された反射電極による表示不良がさらに視認され難くなる。透過モードの表示品位を重要視する場合は、両方の反射電極をドレイン電極から電気的に切断することが好ましい。

【0028】

また、ある1つの反射電極を介して、隣接画素間の短絡と対向電極との短絡が同時に発生した場合は、両方の反射電極をゲート電極から電気的に切断することが好ましい。

【0029】

【発明の実施の形態】

以下に、図面を参照しながら、本発明による実施形態の液晶表示装置およびそ

の欠陥修正方法を説明する。本発明は、以下の実施形態に限定されるものではない。

【0030】

図1は、本実施形態の両用型液晶表示装置100の平面図を示し、図2は、液晶表示装置100の断面図を示し、図1のA-A'線に沿った断面図に対応する。

【0031】

液晶表示装置100は、TFT基板20と、カラーフィルタ基板40と、これらの間に設けられた液晶層30とを備える。

【0032】

TFT基板20は、透明基板1と、その上に設けられた、スイッチング素子としてのTFT25と、TFT25を覆うように形成された層間絶縁膜11と、TFT25のドレイン電極8とそれが電気的に接続された画素電極14とを有している。画素電極14は、層間絶縁膜11の下に形成された透明電極9と、層間絶縁膜11の上に形成された反射電極12とを有しており、それが、透過モードで表示を行う透過領域と、反射モードで表示を行う反射領域を規定する。反射電極12は、透明電極9とドレイン電極8との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線13を介してドレイン電極8に接続されている。

【0033】

カラーフィルタ基板40は、透明基板31と、その上に設けられた、カラーフィルタ層（必要に応じて、ブラックマスクを含む）32と、液晶層30を介して画素電極14に対向する対向電極33を有する。TFT基板20およびカラーフィルタ基板40のそれぞれの外側には、位相差板52aおよび52bと、偏光板54aおよび54bとが配置されているとともに、TFT基板20の最も外側（液晶層30とは反対側）には、バックライト50が配置されている。

【0034】

液晶層30としては、偏光モード（例えばTNモード）の表示が可能な液晶層が使用される。但し、これに限定されるものではなく、例えば、ゲスト・ホストモードの液晶層を使用すれば、位相差板52aおよび52bや偏光板54aおよ

び54bとを省略することが可能となる。

【0035】

図1を参照しながら、TFT基板20の構成をさらに詳しく説明する。図1は、1つの画素領域（表示の最小単位である画素に対応する領域）のTFT20の平面構造を示している。

【0036】

TFT基板20は、絶縁性透明基板（例えば、ガラス基板）1上に、マトリクス状に配置されたTFT25を有している。透明基板1上には、走査配線（ゲートバスライン）2とこの走査配線2から分岐されたゲート電極2が、例えば、Ta層を用いて形成されている。また、走査配線2と同じTa層から、補助容量配線15が形成されている。これらを覆うゲート絶縁層3は、例えば、SiNxを用いて形成されている。TFT25は、半導体層（例えば、a-Si層）4と、コンタクト層（例えば、n型a-Si）6、信号配線（データバスライン；例えば、Ta層とITO層との積層膜）7から分岐されたソース電極7と、ドレイン電極（例えば、Ta層（下層）とITO層（上層）との積層膜）とを有している。半導体層4は、チャネル領域5と、ソース領域およびドレイン領域が形成されている。このTFT25としては、公知の構造の種々のTFTを用いることができる。

【0037】

TFT25のドレイン電極8に、透明電極9および反射電極12からなる画素電極14が電気的に接続されている。透明電極9は、ドレイン電極8の上層であるITO層と一体に形成されており、それによって、ドレイン電極8と電気的に接続されている。さらに、透明電極9の延長部として、この同じITO層から接続配線13が形成されている。接続配線13は、反射電極12と接続するための第1領域13aと、第1領域13aよりも幅の狭い第2領域13bを有している。

【0038】

なお、補助容量配線15は、その上に形成されたゲート絶縁膜3と、さらにその上に形成された透明電極9aとによって、補助容量を構成し、液晶層に印加さ

れる電圧を保持する役割を果たす。補助容量は、省略してもよい。

【0039】

TFT基板25のほぼ全面に絶縁膜（例えば、SiNx層）10が形成されており、さらにその上に、層間絶縁膜（例えば、ポジ型感光性樹脂層）11が形成されている。絶縁膜10は省略することができる。層間絶縁膜11上に、反射電極（例えば、Mo層（下層）とAl層（上層）との積層膜）12が形成されている。層間絶縁膜11の表面は、反射光に適度な配光分布を持たせるために、複数の凸凹が不規則に形成された形状を有している。また、反射領域と透過領域の液晶層30の厚さがそれぞれ最適となるように、（例えば、反射領域の厚さが透過領域の厚さの1/2となるように）、層間絶縁層11の厚さは設定されている。

【0040】

反射電極12のコンタクト部12aは、絶縁膜10および層間絶縁膜11にそれぞれ形成されたコンタクトホール10aおよび11a内に露出された修正用接続電極13の第1領域13a上に形成され、電気的に接続されている。すなわち、反射電極12は、接続配線13の第1領域13a、第2領域13bおよび透明電極9を、この順に介して、ドレイン電極8に電気的に接続されている。

【0041】

このように、反射電極12とドレイン電極8との電気的な接続は、透明電極9とドレイン電極8との電気的な接続に関与しない、別途設けられた接続配線13を介して行われているので、接続配線13を切断すれば、透明電極9とドレイン電極8との電気的な接続を維持したまま、反射電極12を電気的にドレイン電極8から切断できる。従って、例えば、液晶層の厚さが狭い反射電極12上に導電性異物が存在し、対向電極33と反射電極12とが短絡した場合、接続配線13を切断すれば、反射電極12だけをドレイン電極8から電気的に切断できるので、透明電極9を正常に動作させることができる。

【0042】

さらに、接続配線13は、反射電極12とコンタクトしている第1領域13aよりもドレイン電極8側に、第1領域13aよりも幅の狭い第2領域13bを有するので、接続配線13の切断は、その第2領域13bを切断することによって

行えばよい。接続用配線13の切断は、例えば、レーザ光を用いて、TFT基板20の裏側（バックライト側）から実施される。

【0043】

図1に示したように、接続配線13の第2領域（切断される領域）13bには、反射電極12を形成しないことが好ましい。レーザ光を第2領域13aに照射することによって切断する場合、反射電極12を構成する金属層の一部が欠落し、短絡の原因となることを防止することができる。また、接続配線13の第2領域13aをバックライトからの光が透過する領域に形成すると、TFT基板20の裏側から、第2領域13aを容易に確認でき、且つ、レーザ光を確実に照射することができるので好ましい。

【0044】

また、レーザ光等が照射された領域は、液晶分子の配向不良などが発生し正常な表示ができないことが多いため、図2および図3に示したように、カラーフィルタ基板40の、接続配線13の第2領域13bに対応する領域に遮光層32aを設けることによって、上記の不良を視認され難くできる。

【0045】

接続配線13の配置は、上記の例に限られず、種々の配置を採用することができる。

【0046】

例えば、図4に示した液晶表示装置200のように、補助容量配線15にコンタクトホール10aおよび11aを設ける構成を採用すると、図1の液晶表示装置100よりも、透過領域の実効開口率を向上することができる。なぜなら、コンタクトホール10aおよび11a上の液晶分子は、所定の配向状態をとり難いので、表示に利用することが難しい。そこで、もともと、バックライトからの光が透過しない領域（上記の補助容量配線15や走査配線2または信号配線2上）にコンタクトホール10aおよび11aを形成すると、透過領域として表示に利用できる面積が増えるので、透過領域の実効開口率が向上する。

【0047】

なお、図4の示した接続配線13を切断するとき、幅の狭い領域13bのうち

、補助容量配線15と重ならない部分を切断することが好ましい。そうすることによって、補助容量配線15にダメージを与えることを防止することができる。また、幅の狭い領域13bの切断予定部に対向する位置には、反射電極12を設けない方が好ましい。

【0048】

上記の説明では、反射電極12と対向電極33とが短絡した場合を例に説明したが、隣接する反射電極12間で短絡が発生した場合にも、上記の構成および修正方法が適用できることは言うまでも無い。

【0049】

また、隣接する反射電極12間が短絡している場合、接続配線13を切断することによって、いずれか一方の反射電極12をドレイン電極8から電気的に切断すれば、切断されなかつた方の反射電極12には正常な電圧が印加され、且つ、電気的に切断された反射電極12には、他方の反射電極12と同じ電圧が印加されるので、表示欠陥は視認され難くなる。

【0050】

電気的に短絡している、同一の信号線に沿って互いに隣接する反射電極12の内、同一フレーム内で先に書き込みが行われる（すなわち、先に線順次走査される走査配線に接続されている）反射電極をドレイン電極8から電気的に切断すると、切り離された反射電極12は、同一フレーム内で後で書き込みが行われる画素に対する信号で駆動されることになり、反射電極12から切断されたTFT25のゲート／ドレイン容量の影響を受けないので、電気的に切断された反射電極12での表示不良がさらに視認され難くなる。

【0051】

このとき、1つのTFT25で、そのTFT25に接続されている透明電極9および反射電極12と、この反射電極12と短絡している隣りの反射電極12を駆動することになるので、このTFT25の負担が大きく、正常には動作しないが、2つの反射電極を電気的に切断してしまうよりも、視認され難くできる。

【0052】

なお、両用型液晶表示装置においては、透過モードと反射モードの両方で表示

を行うことができるので、いずれの表示モードによる表示の品位を重要視するかによって、修正方法を変更し得る。上記とは逆に、透過モードの表示品位を重要視する場合、互いに短絡している反射電極12の両方をドレイン電極8から電気的に切断することが好ましい。こうすると、それぞれの画素の透過領域は正常な表示を行うことができる。このとき、動作しない反射領域は、ノーマリホワイトモードにおいては輝点となるが、反射モードの表示における輝点は、透過モードの表示における輝点ほど目立たない。なお、ノーマリブラックモードの表示においては、動作しない反射領域は黒点となるので、目立たない。

【0053】

また、ある1つの反射電極を介して、隣接画素間の短絡と対向電極との短絡が同時に発生した場合は、両方の反射電極をドレイン電極から電気的に切断することが好ましい。

【0054】

【発明の効果】

本発明によると、反射電極と透明電極とを有する液晶表示装置において、反射電極を介した短絡不良が発生した場合に、短絡不良が発生した画素の透明電極を正常に動作させるための修正が容易な液晶表示装置およびそのような欠陥の修正方法が提供される。

【0055】

本発明の液晶表示装置が有する反射電極は、透明電極とドレイン電極との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線を介してドレイン電極に接続されているので、接続配線を切断すれば、透明電極とドレイン電極との電気的な接続を維持したまま、反射電極がドレイン電極から電気的に切断することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明による実施形態の液晶表示装置100を模式的に示す平面図である。

【図2】

本発明による実施形態の液晶表示装置100を模式的に示す断面図である。

【図3】

本発明による実施形態の液晶表示装置100を模式的に示す平面図であり、カラーフィルタ基板に設けられた遮光層32aの配置を示す図である。

【図4】

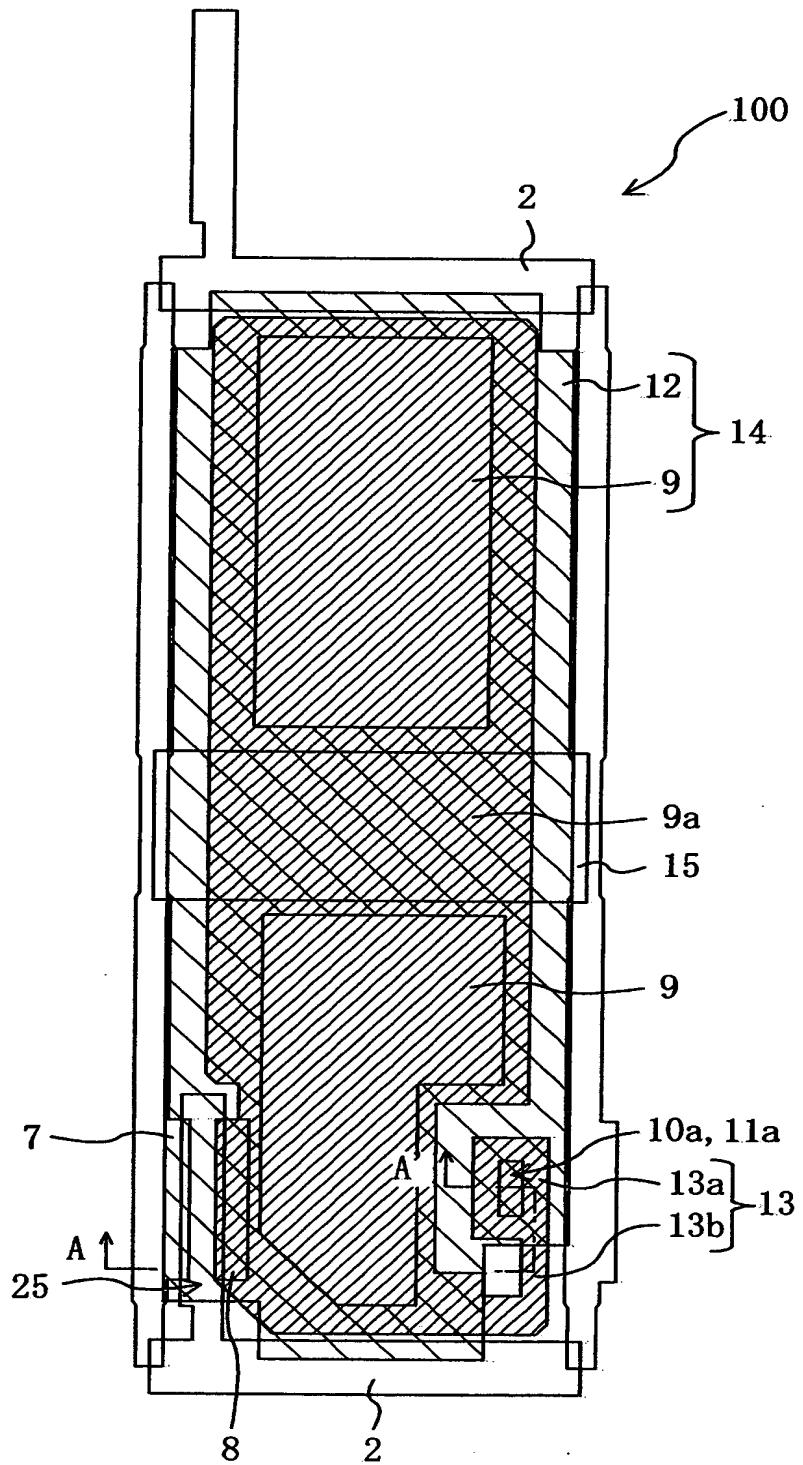
本発明による実施形態の他の液晶表示装置200を模式的に示す平面図である

【符号の説明】

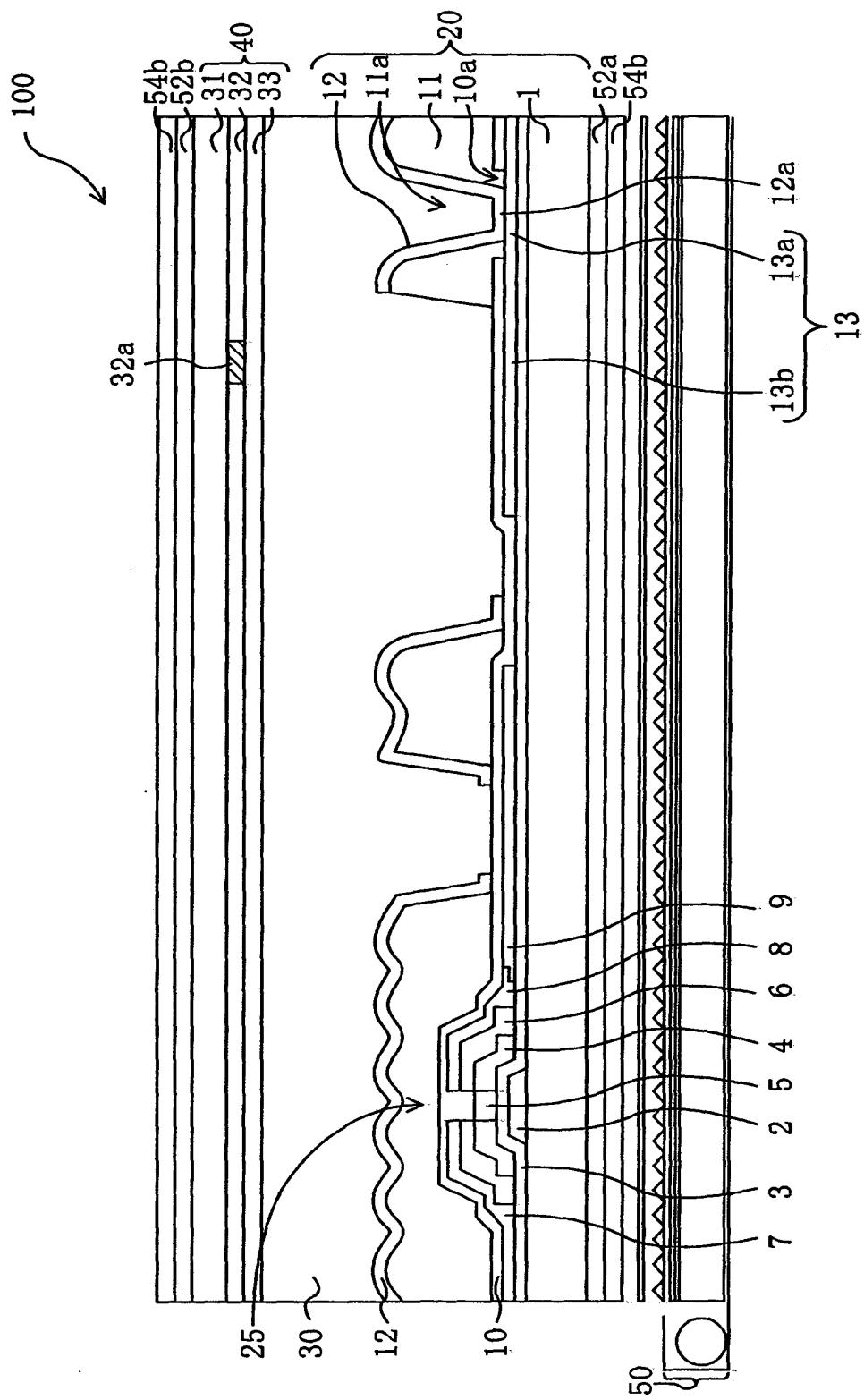
- 1、31 透明基板（ガラス基板）
- 2 ゲート電極、走査配線
- 3 ゲート絶縁膜
- 4 半導体層
- 5 チャネル領域
- 6 コンタクト層
- 7 ソース電極、信号配線
- 8 ドレイン電極
- 9 透明電極（透明画素電極）
- 10 絶縁膜
- 10a、11a コンタクトホール
- 11 層間絶縁膜
- 12 反射電極（反射画素電極）
- 13 接続配線（修正用配線）
- 14 画素電極
- 20 TFT基板（透過反射両用基板）
- 25 TFT
- 30 液晶層
- 32 カラーフィルタ層
- 33 対向電極（透明電極）
- 40 カラーフィルタ基板

【書類名】 図面

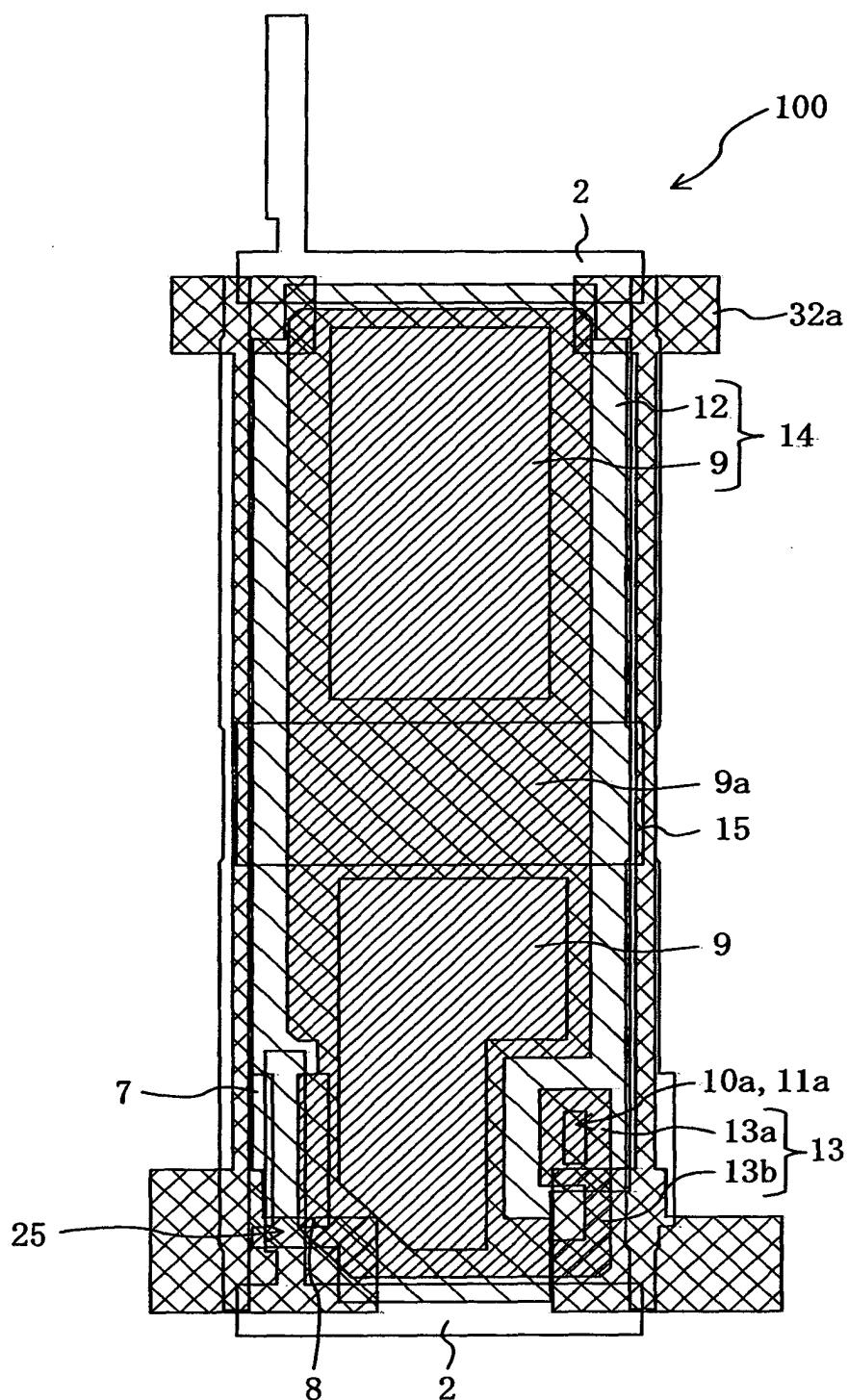
【図1】



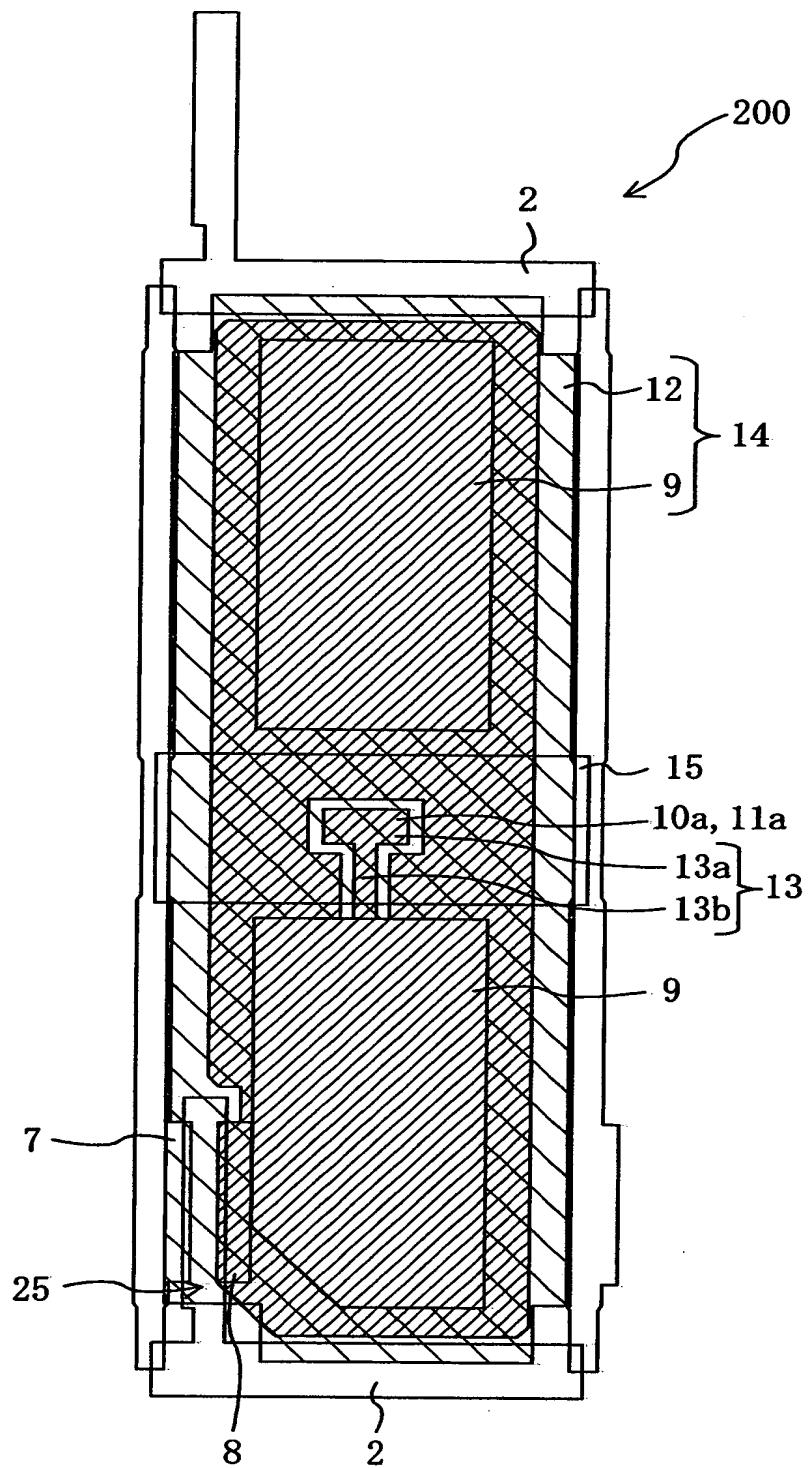
【図2】



【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 反射電極を介した短絡不良が発生した場合に、短絡不良が発生した画素の透明電極を正常に動作させるための修正が容易な液晶表示装置およびそのような欠陥の修正方法を提供する。

【解決手段】 液晶表示装置100のTFT基板20は、TFT25と、TFT25を覆うように形成された層間絶縁膜11と、TFT25のドレイン電極8とそれぞれが電気的に接続された画素電極14とを有し、カラーフィルタ基板40は、液晶層30を介して画素電極14に対向する対向電極33を有する。画素電極14は、層間絶縁膜11の下に形成された透明電極9と、層間絶縁膜11の上に形成された反射電極12とを有している。反射電極12は、透明電極9とドレイン電極8との電気的な接続経路と別に設けられた接続配線13を介してドレイン電極8に接続されている。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
氏 名 シャープ株式会社